

第74回 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 議事録

1. 日 時：2013年8月28日(水) 10:00～18:30

2. 場 所：日本機械学会 第1会議室

3. 出席者：(委員22名中、出席者20名；敬称略)

小山(三菱重工) 永田(日立GE) 堂崎(日本原電) 小木曽(川崎重工) 肥田(中部プラントサービス)
町田(テプコシステムズ) 野村(関電) 杉江(原安進) 岩佐(東芝) 小島(東電) 山田(中部電力)
田中(日本製鋼所) 鹿島(電中研) 笠原(東大) 月森(JAEA) 神坐(富士電機) 佐藤(発電技検)
鬼沢(JAEA) 兼近(鹿島)

欠席：栗飯原(東大) 望月(阪大)

オブザーバー：齋藤(原安進) 北条/山本/藤井/濱口/芽田(三菱重工) 高坂/田村(日本原燃)

清水(日立GE) 安達(東芝) 稲田/三枝(電中研) 天野/瀬良(関西電力) 古川(電気協会)

小林/西澤/中間/浦辺(日本原電) 丸岡(JNES) 下条(神戸製鋼所) 日野(大林組) 片岡(日揮)

事務局：高柳、小沢、栗津

4. 配布資料

74-1：第73回原子力専門委員会議事録案

74-2：投票結果

74-3：新規質問及び公衆審査結果

74-4：第65回発電用設備規格委員会議事録案

74-5：原子力専門委員会委員/分科会委員案

74-6-1：委員会資料取扱内規の書面投票依頼

74-6-2：シビアアクシデント時構造健全性評価ガイドライン案原子力専門委員会書面投票コメント対応

74-6-3：規格委員会補足倫理規定案

74-6-4：デジタルRT検討タスク報告書案に対する御意見伺いの結果

74-6-5：シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン(PWR PCCV)策定に関する検討状況

74-6-6：ASME規格値を規格に取り入れる場合の取扱いに関する内規

74-6-9：原子力規格類協議会状況

74-6-10：ASME Code Week MontrealにおけるMDEPプロジェクトSDO打合せ報告

74-6-11：一般要求事項検討タスク今後の活動について

74-6-12：原子力専門委員会委員長の選任手続について

74-7-1-1：BWR配管減肉管理に関する技術規格原子力専門委員会書面投票意見に対する対応

74-7-1-2：PWR配管減肉管理に関する技術規格原子力専門委員会書面投票意見に対する対応

74-7-1-3：原子力専門委員会書面投票意見への対応について

74-7-2-1：PWR配管減肉管理に関する技術規格新旧比較表

74-7-2-2：液滴衝撃エロージョン(LDI)の通常測定のうち追加測定点の測定方法について

74-7-2-3：PWR配管減肉管理に関する技術規格原子力専門委員会書面投票時からの修正箇所について

74-9-1：発電用設備規格委員会での溶接規格改定案に対する投票結果について

74-9-2：原子力専門委員会での維持規格の改定方針案に対する御意見伺いについて

74-10-1：コンクリート製原子炉格納容器規格審議項目

74-10-2：原子力専門委員会再書面投票結果

74-10-3：CCV規格改訂案に対するコメント対応表

74-10-4：CCV規格改訂案

74-11-1(1)：封止溶接方法規格案

74-11-1(2)：封止溶接方法規格案 規格委員会投票意見への回答

74-11-1(3)：封止溶接方法規格案

74-11-1(4)：機器区分別補修技術適用表

74-11-1(5)：封止溶接方法規格案解説

74-11-2：ステンレス鋼の材料定数の誤記修正

74-11-3：JEAG4208-2012「軽水型原子力発電所用蒸気発生器伝熱管の供用期間中検査における渦流探傷試験指

針」対応

74-11-4：長手継手の試験範囲に係る記載の適正化

74-11-5：弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適性化に関する誤記訂正

74-12-1：溶接規格 規格委員会再書面投票意見（投票 NO.231）回答案

74-12-2：溶接規格 規格委員会書面投票意見（投票 NO.230）回答案

74-12-3：溶接規格 2014 年追補改訂案 原子力専門委員会書面投票提案

74-13-1-1：設計・建設規格第 編 2014 年追補改訂案について

74-13-1-2：設計・建設規格 2014 年追補規格改訂案件一覧表

74-13-2：設計・建設規格第 編 2012 年版正誤表提案

74-14-1：規格委員会書面投票結果対応について

74-14-2：QNC2005106 質問回答

74-15-1-1：金属キャスク構造規格審議項目

74-15-1-2：規格委員会書面投票（NO.233）に対するコメント回答に向けた方針

74-15-1-3：「適用する構造規格の年版」及び「設計仕様者の作成者」の修正について

74-16：各分科会活動報告

5．議事内容

（１）開会

小山委員長が委員会開会を宣言した。

（２）出席者紹介

出席者全員の自己紹介を行った。

（３）議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく、承認された。

（４）前回議事録確認【資料 74-1】

前回議事録案については既に事務局から関係各位に送付済であるため、内容紹介は省略したが、承認された。

（５）投票結果報告【資料 74-2】

事務局より、原子力専門委員会投票 No.315 から 323、規格委員会投票 No.228 から 234 の投票結果が報告された。

（６）質問受付＆公衆審査結果【資料 74-3】

事務局より、設計・建設規格に関する新規質問（１件）溶接規格に関する質問（１件）金属キャスク構造規格に関する新規質問（１件）の受付状況が報告された。

また公衆審査結果として設計・建設規格 2013 年追補第 編、設計・建設規格 2013 年追補第 編、設計・建設規格事例規格発電用原子力設備の設計・建設に関わる一般事項の適用、外部事象シビアアクシデント対策設備設計ガイドライン（BWR 編）案の意見受付はなかったことが報告された。

（７）第 65 回発電用設備規格委員会議事録等報告【資料 74-4】

事務局より、第 65 回発電用設備規格委員会の議事録案が報告された。

（８）原子力専門委員会委員／分科会委員の承認【資料 74-5】

事務局より、以下の通り原子力専門委員会、原子力専門委員会傘下の各分科会委員の再任、退任、新任の委員候補が報告された。JNES 委員は規制庁の方針を踏まえ、今回全ての専門委員会・分科会委員を退任した。

原子力専門委員会：

〔再任〕鹿島委員、町田委員

〔新任〕古川氏（電気協会） 小林氏（日本原電）

〔退任〕糸田川委員、菊池委員、堂崎幹事

設計・建設分科会：

〔再任〕山田副主査、瀬良委員、楠委員

〔退任〕高倉委員

材料分科会：

〔再任〕山田主査、楠幹事、大下委員、長澤委員、安田委員、岩波委員

維持規格分科会：

〔再任〕町田幹事、杉江委員

〔新任〕長谷川氏（関西電力） 浦辺氏（日本原電）

〔退任〕平野委員、寺門委員、菊池委員

溶接分科会：

〔再任〕西本主査、杉江幹事、望月委員

〔新任〕須澤氏（中国電力）

〔退任〕谷浦委員、菅野委員

使用済燃料貯蔵施設分科会：

〔再任〕瀧口委員、白井委員、浦部委員、川村委員、甫出委員

〔新任〕村田教授（名古屋大） 入江氏（関西電力）

〔退任〕片山副主査、丸岡幹事

〔三役異動〕入江委員→副主査、清水委員→幹事

コンクリート製格納容器規格分科会：

〔再任〕橘高委員、小栗委員、脇岡委員、辻委員、菊池委員、秋田委員、岩島委員、小林委員

〔新任〕太田氏（日本原電）

〔退任〕福田委員、古川委員、森谷委員

高温規格分科会：

〔再任〕大谷幹事、定廣委員、加藤委員

〔退任〕橘委員、井上委員

環境疲労評価分科会

〔再任〕杉江幹事、西川委員、永田委員

再処理設備分科会

〔再任〕山本主査、加納幹事、大枝委員、水谷委員、矢野倉委員

〔新任〕安田氏（原安進） 中原氏（IHI）

〔退任〕澄川委員、齋藤委員、原島委員、野島委員

配管減肉分科会

〔再任〕天野委員

〔新任〕山上氏（三菱重工） 水野氏（中部電力）

〔退任〕改野委員、釘本委員、大高委員

事務局及びオブザーバー退室後、審議した結果、原子力専門委員会委員の再任候補、新任候補が了解され、各分科会委員の再任候補、新任候補が承認された。

（９）原子力専門委員会運営に関する審議／報告事項

〔審議事項〕

（９－１）委員会資料取扱内規提案【資料 74-6-1】

齋藤委員より委員会資料取扱内規提案に関する説明が行われた。原子力専門委員会書面投票（可決）回答案に関する説明が行われ、回答案が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。今後、火力専門委員会等、他の専門委員会書面投票を実施する予定。

（９－２）シビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドライン書面投票対応【資料 74-6-2】

永田副委員長よりシビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドライン案の原子力専門委員会書面投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。意見回答案の一部は技術的な修正があり、再投票が必要。議論の結果、編集上の修正箇所も多々あることから、規格案全部の再投票（期間：2 週間）を実施すること、再投票可決後、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・技術的な修正は大きくは3 点あり、電気ペネトレーションに関する追記が大きな修正。
- ・検証と妥当性確認は評価者の責任で実施することであるが、具体的な対象を明記するべきではないか？
→本件は解析コード等の検証を行うための評価基準を本ガイドラインで規定すべきでは？という意見に対する回答であり、V & V等は本ガイドラインの対象外であることを回答したものである。資料 74-6-2 のコメント No.4-1-2 に検証対象は汎用解析コードであることを追記する。

（ 9 - 3 ）規格委員会補足倫理規定案【資料 74-6-3】

小山委員長より規格委員会補足倫理規定案の状況に関する説明が行われた。原子力専門委員会書面投票は可決。今後他の専門委員会における書面投票が実施される予定。

（ 9 - 4 ）デジタルR T検討タスク報告書案に対する御意見伺い対応【資料 74-6-4】

山田委員よりデジタルR T検討タスク報告書案に対する御意見伺い対応方針案に関する説明が行われた。方針案は承認され、今後報告書を一部修正後、完了予定。本報告書を踏まえた規格策定は溶接分科会にて実施予定。

〔 報告事項 〕

（ 9 - 5 ）シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン（PWR PCCV）策定状況【資料 74-6-5】

瀬良タスク主査よりシビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン（PWR PCCV）策定に関する中間報告に関する説明が行われた。現在、ライナに関する背圧による損傷モード、判定基準における歪み集中係数の検討等実施中。次回以降原子力専門委員会にて書面投票提案予定。主な議論は以下の通り。

- ・BWRは破壊が不連続部で起こるので、歪集中係数を乗じている。ライナの破壊が一般部で起こり、破壊モードがBWRとは違うのであれば、歪集中係数を同様に乗じる必要は無いのでは？→補正係数 β の値、妥当性等についても整理中であり、合わせて整理する。

（ 9 - 6 ）ASME 規格値を規格に取り入れる場合の取扱いに関する内規【資料 74-6-6】

小山委員長より ASME 規格値を規格に取り入れる場合の取扱いに関する内規に関する説明が行われた。規格委員会書面投票（可決）結果を踏まえ、さかのぼっての適用の条件付き記載を追加。本内規にて今後運用。

（ 9 - 7 ）設計建設規格英訳タスクの状況

小山委員長より設計建設規格英訳タスクの状況に関する説明が行われた。英訳版の native check については年度内実施を目標に検討中。

（ 9 - 8 ）原子力関連学協会規格類協議会状況【資料 74-6-9】

小山委員長より原子力関連学協会規格類協議会の状況として、規制庁職員のオブザーバー派遣、技術評価の状況等に関する説明が行われた。

（ 9 - 9 ）一般要求事項検討タスクの状況【資料 74-6-11】

小山委員長より一般要求事項検討タスクの状況に関する説明が行われた。事例規格一般要求事項は公衆審査が終了。今後は対外活動を実施予定。

（ 9 - 10 ）原子力専門委員会委員長の選任手続【資料 74-6-12】

事務局より原子力専門委員会委員長の選任手続に関する説明が行われた。原子力専門委員会委員長の任期（2 期目）が本年 12 月末で満了となるため、規約に従い会委員長の選任手続を実施する。

(1 0) 原子力発電用設備規格に関する報告 / 審議

(1 0 - 1) 配管減肉管理規格改訂案に関する審議【資料 74-7-1,2】

配管減肉分科会の稲田主査、北条副主査、小島幹事、天野委員、濱口委員、BWR / PWR 作業会の中間委員、三菱重工の藤井氏 / 濱口氏より配管減肉管理規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

BWR 配管減肉管理技術規格原子力専門委員会書面投票意見回答案【資料 74-7-1-1】

BWR 配管減肉管理技術規格の原子力専門委員会書面投票（可決）意見に対する対応状況について説明があった。（NO.14 に関する回答を現在作成中等）

今回は状況説明のみであり、次回委員会にて審議を行う。

PWR 配管減肉管理技術規格原子力専門委員会書面投票意見回答案【資料 74-7-1-2】

PWR 配管減肉管理技術規格の原子力専門委員会書面投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、NO.8 の意見回答案については下記 の通り再投票が承認され、それ以外については回答が妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・図 CA-1100 は低圧給水加熱器 4 段プラントの例と記載がある。例示は解説ではないか？→図 CA-1100 は本文に紐付けており、本文図である。→例と記載はあるが、赤の系統の減肉測定を要求しており、規定要求である。

液滴衝撃エロージョンの通常測定の追加測定点測定方法の書面投票意見回答案【資料 74-7-2-1～3】

液滴衝撃エロージョンの通常測定の追加測定点測定方法の書面投票意見回答案に関する説明が行われた。「確認しても良い」という記載は解説には不適であり、液滴衝撃エロージョンによる減肉が想定される範囲について通常測定の定点以外にも部分的な最小厚さを確認する考慮が必要であることが解説 CB-2310 に記載済であるため、解説 CB-2320 は不要であり削除する。本回答案に関しては、マイナー修正であるので再投票は不要では？という意見があり、再投票の必要性を議論した結果、委員多数の賛成（必要性有り：12 票、必要性無し：5 票）により再投票を実施することが承認された。なお、資料 74-7-2-2 は記載が一部古いため、再投票の内容が読んで分かる様な記載に修正する。主な議論は以下の通り。

・解説 CB-2320 を削除するとのことであるが、測定フロー上、詳細測定における解説 CB-2320 に該当する行為は必ず実施するパスとなっているのか？→通常測定の規定の解説に、該当する行為が規定されている。

原子力専門委員会書面投票意見回答案【資料 74-7-1-3】

配管分岐合流部の必要最小厚さの設定等に関する原子力専門委員会書面投票意見回答案に関する説明が行われた。NO.2 は継続検討中。他の回答案は承認された。なお配管分岐合流部の減肉管理が材料の弾性範囲内で行われるためには NO.2 の結果も関係するとの意見もあった。

(1 0 - 2) 再処理設備規格改訂案に関する審議【資料 74-9-1,2】

再処理設備分科会の山本主査、溶接規格作業会の高坂幹事、維持規格作業会の田村幹事より再処理設備規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

規格委員会での溶接規格改定案に対する投票結果【資料 74-9-1】

規格委員会での溶接規格改定案に対する書面投票意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること、規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

原子力専門委員会での維持規格改定方針案に対する御意見伺い結果【資料 74-9-2】

原子力専門委員会での維持規格改定方針案に対する御意見伺い意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること、規格委員会に御意見伺いを提案することが委員全員の賛成により承認された。

(1 0 - 3) コンクリート製原子炉格納容器規格改訂案に関する審議【資料 74-10-1～4】

コンクリート製原子炉格納容器規格分科会の西澤幹事よりコンクリート製原子炉格納容器規格改訂案の原子力専門委員会再書面投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に改訂案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

（１０－４）維持規格改訂案に関する審議【資料 74-11-1～5】

維持規格分科会の野村主査、評価作業会の北条主査、検査作業会の浦邊委員、補修作業会の安達主査より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

封止溶接方法規格案【資料 74-11-1】

規格委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。反対意見の菅野委員は意見回答案を了解、反対意見を取下げ。吉田委員は封止溶接の確性試験において EDM スリットでは封止溶接部での温度プロフィールに影響があったという知見を解説に残すこと、SCC き裂は EDM スリットのように開口部は広いことはなく、また、SCC き裂によるテンパー効果への影響は小さいと考えられること等から、大筋で意見回答案を了解。議論の結果、意見回答案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に改訂案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

ステンレス鋼の材料定数の誤記修正【資料 74-11-2】

規格委員会二次投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。Z 係数式そのものも直さないのか？という意見に対しては今回の提案はあくまで元文献の表の数値の単なる誤記訂正であり、誤記訂正した J-R 曲線を用いた再現解析結果も一致しており、該当箇所の誤記であることを確認したという回答。議論の結果、意見回答案は妥当であり、指摘による規格案修正は編集上の修正であること、回答案に一部追記して規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

JEAG4208-2012 発行対応【資料 74-11-3】

JEAG4208-2012「軽水型原子力発電所用蒸気発生器伝熱管の供用期間中検査における渦流探傷試験指針」発行に伴う、維持規格への引用を検討する原子力専門委員会書面投票に関する説明が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により書面投票の実施が承認された。

長手継手の試験範囲に係る記載の適正化【資料 74-11-4】

長手継手の試験範囲に係る記載の適正化の原子力専門委員会書面投票に関する説明が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により書面投票の実施が承認された。

弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適性化に関する誤記訂正【資料 74-11-5】

弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適性化に関する誤記訂正に関する説明が行われた。議論の結果、誤記訂正が妥当であること、規格委員会に訂正案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

（１０－５）溶接規格改訂案に関する審議【資料 74-11-1～3】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

規格委員会再書面投票意見（投票 NO.231）回答案【資料 74-11-1】

規格委員会再書面投票意見（投票 NO.231）回答案（可決）に関する説明が行われた。議論の結果、回答案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に回答案を説明することが委員全員の賛成により承認された。

規格委員会書面投票意見（投票 NO.230）回答案【資料 74-11-2】

規格委員会書面投票意見（投票 NO.230）回答案（可決）に関する説明が行われた。議論の結果、回答案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に回答案を説明することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・裏はつりに関し、記載を本文で規定化しても全体的なバランスが悪くならないという目途が立った段階で本文の規定化を検討することだが、重要な改訂は直ちに行うべきで、バランスの考慮は必要なのか？→溶接後熱処理等は裏はつりより重要な規定であることから溶接後熱処理等の本文規定の充実化を図ることが先であり、裏はつりのみ詳細な規定をすると本文規定全体のバランスがひじょうに悪くなることから、今後の改訂で本文規定全体の充実化を図った段階で検討することになっている。

・ASMEにおける裏はつりの規定はどのようなものか？→ガウジング、機械的切削などの裏はつりの方法に関する規定がある。

・事例規格コンクリート製原子炉格納容器規格でエネ庁の大飯3,4号PCCV技術指針を引用しているが、かなり以前のもので、引用する必要はあるのか？→過去の実績で適用された技術指針を参考にして規定しているため引用している。

溶接規格 2014 年追補改訂案 原子力専門委員会書面投票提案【資料 74-11-3】

溶接規格 2014 年追補改訂案の原子力専門委員会書面投票に関する説明が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により書面投票の実施が承認された。主な議論は以下の通り。

・溶接規格で引用されている JIS 材料を材料規格で引用されている JIS 材料と整合を図る必要はないのか？→引用している JIS 規格の材料は、溶接施工法試験で使用する材料に対してであり、製品に対して適用するものでないため材料規格で規定されている JIS 年版との整合化を図る必要は無い。

(1 0 - 6) 設計・建設規格改訂案に関する審議【資料 74-13-1,2】

設計・建設分科会の永田主査より、設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

設計・建設規格 2014 年追補改訂案【資料 74-13-1】

設計・建設規格 2014 年追補改訂案の原子力専門委員会書面投票に関する説明が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により書面投票の実施が承認された。

設計・建設規格第 編 2012 年版正誤表提案【資料 74-13-2】

設計・建設規格第 編 2012 年版正誤表提案に関する説明が行われた。議論の結果、提案は妥当であり、規格委員会に提案を説明することが委員全員の賛成により承認された。

(1 0 - 7) 材料規格改訂案に関する審議【資料 74-14-1,2】

材料分科会の山田主査より、材料規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

材料規格 2012 年版改訂案 (その 2) 規格委員会書面投票対応【資料 74-14-1】

材料規格 2012 年版改訂案 (その 2) 規格委員会書面投票 (可決) 回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に回答案を説明することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・補間式の整理表の添字 1 と 2 は下付文字にすること。→拝承。

設計・建設規格付録材料図表への質問回答【資料 74-14-2】

設計・建設規格付録材料図表への質問回答案に関する説明が行われた。議論の結果、QNC2005106 の質問回答案が委員全員の賛成により承認された。

(1 0 - 8) 使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する審議【資料 74-15-1,2】

使用済燃料貯蔵施設分科会の三枝主査、清水幹事、下条委員、JNES 丸岡氏より使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

金属キャスク構造規格 2013 年版改訂案規格委員会書面投票対応案【資料 74-15-1】

金属キャスク構造規格 2013 年版改訂案の規格委員会書面投票(反対票有り)の意見回答案に関する説明が行われた。規格委員会書面投票では反対票 4 票、保留票 9 票があり、多くの意見が寄せられた。対応としては、主に、適用する構造規格の年版、設計仕様書の作成者等の修正を行い、特に規格年版を変更することの必要性を整理して、今後規格委員会の反対票、保留票意見者への個別説明を行い、その結果を原子力専門委員会三役確認後、原子力専門委員会書面投票を開始することになった。主な議論は以下の通り。

- ・むつで予定されている中間貯蔵施設でのキャスクでは 3 次蓋が使用されるが、これはキャスクを各原子力発電所と中間貯蔵施設及び再処理施設間で輸送する場合しか使用せず、また同一型式の各キャスク共通で用いられる。キャスク製作は年単位での時間遅れがあり、設工認は分割する計画になっているので、3 次蓋に適用される技術基準年版には特別な運用をすることが合理的である。基本は同一キャスク同一年版であるが、適用の工夫が必要。

- ・規格の適用年版、設計仕様書を作成者が指定できるというのは、「規格のいいとこどり」と見なされる可能性がある。

- ・3 次蓋は途中で取替える場合もある。金属キャスクの規格としてではなく、例えば輸送用の規格として整理する考えもある。

金属キャスク構造規格 2007 年版質問回答案件【資料 74-15-2】

金属キャスク構造規格 2007 年版質問 (QFA200718) 回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案は妥当であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・今回質問のあった ASME (2010ed. +2011Ad.) 材と ASTM (2002b) 材については、GLF1 と ASTM 材、GLF1 と ASME 材のそれぞれでは化学的成分および機械的強度が同等以上であるといえる。

- ・しかしながら、ASTM 材には微量添加元素を考慮した炭素当量の上限值が規定されており、これは ASME 材では規定がなく異なっている。そもそも相当材として同じ材料であるはずの ASME 材と ASTM 材で規定が異なるのは少々違和感がある。また、ASTM 材の最新年版は 2012 年であり、この年版では ASME 材と同じ規定に変更されている。

- ・以上のことから、今回の質問で相当材として使用を希望する材料からは ASTM 材を削除することについて質問者と調整する。

(11) 各分科会活動報告【資料 74-16】

各分科会より活動報告が説明された。

6 . その他

原子力専門委員会の今後の予定は以下の通りになった。

第 75 回 : 2013 年 11 月 27 日 (水) 10:00 ~ 17:00 (予定) JSME 第 1 会議室

以上